

議会報告

日本共産党交野市会議員団

かたの民報

NO. 1561
2012年10月発行

交野市役所 共産党控室
私部 1-1-1
☎ 892-0121 (内線 301)

中上さち子 ☎893-6785
さかの光雄 ☎893-1083
さらがいふみ ☎894-2835

日本共産党

9月議会一般質問



高齢者・障がい者の外出支援 「福祉有償移送サービス」の改善を

4月から社会福祉協議会で実施されている移送サービスは高齢者・障がい者から歓迎されています。同時に、改善を求める声があり次の点を市福祉部に要望しました。

障がい者すべてを利用対象に

利用対象は「要支援・要介護」認定者、身体障がい者手帳保持者で、さらに「一人で外出することが困難な人」に限られています。杖などを使えば自分で歩ける人は利用対象外となっています。

療育・精神障がい者を含め、すべての障がい者を利用対象にすべきです。

介助者の同乗条件は柔軟に

介助者の同乗が条件となっているため、介助者サービスを利用した場合には費用がかかります。一律に、介助者同

乗を条件とせず利用者の状態に合わせるべきです。

利用回数は月2回以上に

利用目的のほとんどは通院ですが、希望者がいっぱいでは断られる場合もあります。利用者（8月末登録77人）は増加傾向にあり、また、もっと利用したいとの声にこたえるには増車など、事業の拡大が必要で

【要望】移送サービスは社協事業ですが、ゆうゆうバス縮小後の高齢者・障がい者の外出支援の受け皿の一つとなっており、市は積極的に財政支援を行なうべきです。

有償移送サービス事業

- ◆利用時間⇒午前9時半～午後4時半
(午前・午後1回づつ車2台で運行)
- ◆利用料 ⇒市内往復 600円 片道 300円
市外往復 800円 片道 400円
- ◆利用回数⇒月2回まで
- ◆申し込み⇒登録後、利用の際にも申請が必要



移送サービス用の軽自動車

交野市 平成23年度決算

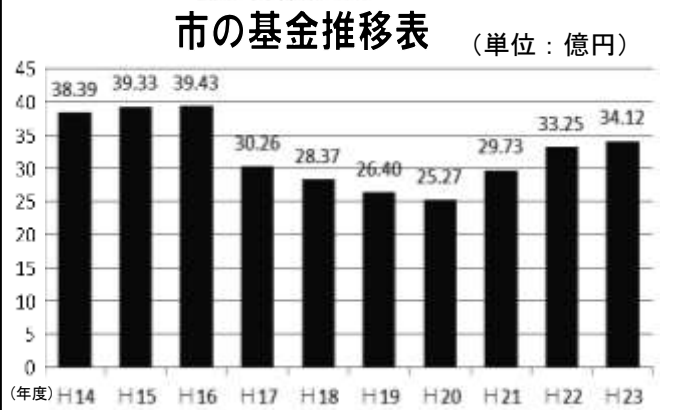
2億9千万円の黒字、基金も積み増し！

交野市の平成23年度決算は、実質収支額が2億9371万5千円の黒字となり、市の基金(積立金)も8700万円積み増し、34億1200万円となりました。

黒字となった主な要因は、市税や地方交付税が、当初予算額を大きく上回ったことにあります。

同時に、この間のゆうゆうバス削減、高齢者のがん検診有料化、交通専従員廃止などの市民サービス削減、職員の削減も要因となっています。

日本共産党は、「基金をためこむのではなく、安心して暮らせる交野をつくるために財源を使うべき」と求めています。



各年度の黒字額

年度(平成)	金額
23年	2億9372万円
22年	1億8029万円
21年	2億7007万円
20年	1億2280万円
19年	5305万円

交野市の財政は、すべて国の健全化基準内

交野市財政健全化判断比率

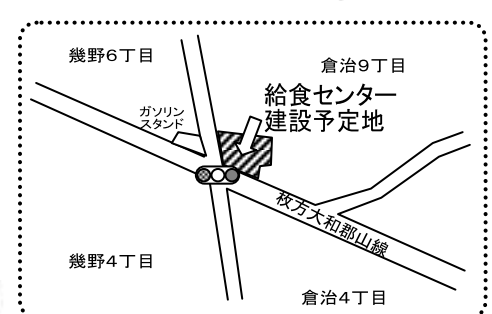
(単位：%)

区分	交野市の比率					国の早期健全化基準	国の財政再生基準
	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年		
実質赤字比率	—	—	—	—	—	12.87~12.91	20.0
連結実質赤字比率	—	—	—	—	—	17.87~17.91	35.0~40.0
実質公債費比率	14.7	15.5	16.2	16.6	16.6	25.0	35.0
将来負担比率	333.6	323.6	304.5	277.0	258.4	350.0	

- 実質赤字額、連結実質赤字額がないため、比率は「—」と表示。
- 将来負担比率には、財政再生基準はありません。

新学校給食センター 献立やアレルギー対応の充実を

現在の2つの給食センターは老朽化がすすんでいるため、平成27年度中の完成をめざして、新給食センターの建設準備が開始されています。



新給食センターは、「学校給食衛生管理基準」に準拠したドライシステム方式とし、厨房機器の充実、アレルギー対応食(除去食)の提供などが予定されています。日本共産党は、新給食センターの建設にあたり、

- ①レトルト・加工食品の使用を減らし、手作りに近づけること。
- ②アレルギー対応は、除去食に加え、部分的な代替食の提供も検討すること。
- ③食器は、現在の先割れスプーンをやめ、箸と丸スプーンを導入すること。
- ④給食センターからの生ごみの堆肥化に積極的に取り組むこと、などを要望しました。